

事後評価書

事業名	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業 津北部地区		事業区分		室名	農山漁村室
事業概要	工期 (下段計画)	昭和62年～平成14年	全体事業費 (下段計画)	2,226百万円 (負担率: 国1/2 : 県8/30 : 他7/30)		
		昭和62年～平成12年		2,250百万円 (負担率: 国1/2 : 県8/30 : 他7/30)		
事業目的及び内容		<p>【事業の目的】 本地区の集落とほ場を結ぶ道路は幅員が狭小であり又、市場へ通じる主要道津関線は交通渋滞が激しく農業交通に支障をきたしているため、当農道の整備により、農業の生産性の向上及び農産物の流通の合理化を図るとともに農村地域の生活環境の改善を図るものです。</p> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路工 L=5,794m (全幅員7.0m、車道幅員5.5m) ・橋梁工 2橋 (L=37.7m、L=16.4m) 				
1・事業の効果		<p>○直接的効果</p> <p>【費用対効果分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画 : 1.50 3,778,554千円 (妥当投資額) / 2,522,316千円 (換算総事業費) ・現状 : 1.98 5,344,812千円 (妥当投資額) / 2,697,506千円 (換算総事業費) <p>【効果の増減理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> サイエンスシティや中勢バイパスへの接続等による一般交通量の増加 一般交通年効果額の増: 139,973千円/年 (現況) - 14,746千円/年 (計画) = 125,227千円/年 豚の飼育数及び裏作等の減少による農業交通量の減少 農業交通年効果額の増: 135,172千円/年 (現況) - 180,938千円/年 (計画) = △45,766千円/年 <p>【施設の管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津市により路面、法面ともに管理されている ・アンケート結果 適切に管理されている 41% 補修・改善が必要 36% その他 23% 【意見】 草刈りの回数を増やす (多数) ゴミの清掃 ガードレール等安全施設の設置 <p>○間接的効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中勢グリーンパーク (サイエンスシティ公園) の利用 農免道路の実施によりサイエンスシティ内にある中勢グリーンパークの利用が容易になったため、地域の憩いの場として利用されている ・中勢用水管の埋設 安濃ダムを水源とする中勢用水管が農道工事と同時に埋設されており、農業用水の安定供給が行われている 				
2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化		<p>○事業実施中に配慮した事項 切土法面の保護を図るため、客土種子吹付を実施</p> <p>○環境の変化、現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果 良い影響があった 22% 悪い影響があった 32% 変わらない 41% その他 5% 				

〔意見〕

明るくなった
ゴミの廃棄が多い（多数）
緑が少なくなった

3・事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・ 地域近辺に産業、流通、住宅、公園などを整備するサイエンスシティ計画の実施や当農免道路への中勢バイパスの接続など、地域状況や交通形態等に大きな変化がありました。
- ・ 農地については、計画時と比較して水田、畑地ともにほぼ同じ状況にあります（約1ha転用）。しかし、生産物については、豚肉や水田の裏作等が減少傾向にあります。

4・県民の意見

○県民の意見の徴集内容

- ・ 当事業受益地の関係集落内150戸にアンケート調査を実施しました。
- ・ 質問事項は
1.農道整備実施の認知度、2.使用頻度、3.農家形態の区分、4.農業面での効果の有無、5.今後の農作業、6.今後の地域の農地、7.効果の有無、8.自然環境への影響の有無、9.地域の景観への影響の有無、10.農道施設の管理状況、11.事業を実施する場合の配慮すべき点、12.事業を実施する場合の改善すべき点についての12項目です。

○県民の意見の内容の取りまとめ及び評価

- ・ アンケートでは農家67戸、非農家18戸、計85戸の回答を得ました。（回収率57％）
- ・ 事業の認知度は98％であり、地域で事業が実施されたことが認知されています。
- ・ 農業面での効果では、55％が「農地の維持管理が容易になった」、46％が「農作物の出荷等が容易になった」、40％が「農作業の大型機械化が可能になった」、31％が「耕作を放棄せずに継続できるようになった」との回答をいただいております、事業実施の効果が認識されています。
- ・ 今後の農作業については、50％が「農作業を続けていきたい」、26％が「子供たちに後を継がせたい」との意見で、今後の地域の農地についての、47％が「守っていきたい」、45％が「守りたいが難しい」とする意見であり、高齢化等に対する課題はありますが、営農に対する意欲が伺えます。
- ・ 事業実施による効果では、97％で「効果があった」と回答しています。「目的地への所要時間の短縮」55件、「緊急自動車の通行可能による安全効果」22件、「集落内への車の乗り入れ効果」28件「地域づくりにつながった」20件など意見があり、多様な効果が認められます。
- ・ 自然環境への影響については、22％が「良い影響」、32％が「悪い影響」41％が「変わらない」との意見でした。「良い影響」では「明るくなった」「荒地にならない」などの意見がございましたが、「悪い影響」では「ゴミの廃棄」の意見が多数あり、一般交通量増加による問題が生じています。
- ・ 地域の景観への影響については、28％が「良くなった」64％が「変わらない」との意見でした。
- ・ 施設の管理状況については、津市が路面、法面等を管理していますが、41％が「適切に管理されている」、36％が「補修・改善が必要である」との意見があり、特に周辺や法面の草刈りの回数を増やす要望が多数見られました。
- ・ 今後事業を実施する場合に配慮すべき点については、「景観維持のため維持管理の徹底」「不法投棄への対応」等の意見をいただきました。
- ・ 今後事業を実施する場合に改善すべき点については、「道路幅を広くする」「農作業車の優先」「安全施設の設置」等の意見があり一般車の走行が多いことに対する対応要望が多いと思われます。また、農産物直売所や農村公園の設置要望の意見もいただきました。

5・今後の課題等

○事業実施等による課題

- ・ サイエンスシティの開発や中勢バイパスとの接続により一般交通量が増加し、ゴミの不法投棄による周囲への環境問題や農業車交通への影響が生じています。
- ・ 受益農地については、営農面積に大きな変化は見られず多くの方が農地を守っていききたいと考えていますが、高齢化や作物単価に対する不安があり、将来に対する対応が必要となり始めています。

○課題への対応方針

- ・ 今後の都市近郊の農免道路（農道）の実施については、将来の農業形態や一般交通量の変化などを十分に勘案し、より効率的で効果的な計画を行っていききたいと考えています。
- ・ 農地の担い手等への集積や「農地・水・環境保全向上活動」などを利用した地域全体で農地・農業用施設の管理を推進します。